

⑧ 食を通じた豊かな人間形成

第2次計画期間における主な取組

食に対する意識の向上やこころ豊かな人間性を育むため、農業体験の機会の提供や小学校給食での地産地消の推進、吹田市の特産品である吹田くわいの栽培奨励などに取り組み、食への関心や理解を深めることにつなげました。

また、妊婦（両親）教室や離乳食講習会、乳幼児健診等で、妊娠期や乳幼児期に望ましい栄養や食習慣について継続して啓発を行いました。保育所や学校等の給食では、食事を楽しむ機会を大切にするとともに、食育の授業等、食への関心を高める取組を実施しました。保護者に対しても、食や栄養に関する知識の普及を行いました。

更に、ひとり暮らしの高齢者が一緒に会食することで、閉じこもりの防止や活力の回復することを目的としたふれあい昼食会を市内全域で開催しました。

実績値及び評価

		策定時 実績 平成26年度 (2014年度)	目標値	中間評価 平成29年度 (2017年度)		最終評価 令和元年度 (2019年度)		最新評価 令和2年度 (2020年度)		
				実績値	評価	実績値	評価	実績値	評価	
①	夕食について 孤食が 「よくある」 子供の割合	幼児期	0.6%	減少	—	—	0.6%	c	—	—
		小学生	1.6%	減少	—	—	0.4%	a	—	—
		中学生	8.8%	減少	—	—	6.8%	a	—	—
②	ふれあい昼食会参加人数	延 10,235人	延 12,000人	延 10,505人	b	延 9,848人	c	延 5,273人	d	
③	食育に関心を持っている 人の割合	69.9%	90.0% 以上	—	—	62.1%	d	—	—	
分野別の総合評価				—		B		—		

成果及び課題

「夕食について孤食が「よくある」子供の割合」は幼児期で変化はなく、小学生、中学生で目標値を達成しています。「ふれあい昼食会参加人数」は令和2年度（2020年度）は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、事業の継続が困難となった期間があったため減少し、「食育に関心を持っている人の割合」も減少しています。

子供の頃に望ましい食習慣を身につけるため、家族や仲間と一緒に食事をする機会や様々な学びの場を通じて、食への関心や理解を深めていけるよう、家庭、保育所、学校、地域等が連携して食育に取り組む必要があります。また、高齢者においては地域でコミュニケーションを図りながら食を楽しむ機会を持つことや、食の知識や経験を次世代に伝える役割として食育活動に関わりを持つことも必要です。